されていました。当時の恩納村の「議会全員協議会 定例会（1971・4）」の資料が残されています。資料には利点として「1号線の交通緩和」「隣接市町村との交通が便利になる」ことが挙げられる一方、縦貫したときの欠点事項の方が多く挙げられています。水源地の汚染、赤土流出といった環境への懸念のほか、観光地恩納村としてはできるだけゆっくり、観光客には恩納村で過ごしてほしいという考えが記されています。最終的に、北部縦貫道路は東コースに決まりました（琉球新報1972年8月26日）。これは現在の石川―許田間の沖縄自動車道にあたります。

【復帰後】

復帰後、1号線は国道58号となりました。国際海洋博覧会関連事業として整備も進められ、嘉手納―仲泊間の片側2車線拡幅や仲泊―許田間の改良工事が行われました。

また、国道58号から北部縦貫自動車道と国道329号を結ぶため、仲泊と山田にバイパスが開通しました。この時、仲泊遺跡のある丘陵も壊される予定になっていましたが、県民や村民の文化財保存運動によってルートが変更され、遺跡は守られました。

2000年の九州・沖縄サミット開催の際も国道58号の整備が行われました。「雨天時の安全性の向上や走行騒音の低減」を目的に、サミット会場やプレスセンター、主要宿泊施設間を結ぶ道を全面的に排水性舗装する工事が実施されました。区間は名護市宮里から恩納村山田までした。

近年の、村内の大きな道路建設は瀬良垣から南恩納までの恩納バイパスと南恩納から仲泊までの恩納南バイパスです。恩納バイパス（北側）、恩納南バイパスは交通渋滞の緩和、交通安全の確保・沿道環境の改善、観光産業の支援を目的として、1989（平成元）年度から事業がはじまりました。恩納バイパスは一部キャンプ・ハンセンの土地にかかっており、2003（平成15）年にその部分の土地が返還されました。2011（平成23）年4月に恩納バイパスが、2018（平成30）年3月に恩納南バイパスが全線暫定供用され、渋滞も以前より緩和しました。しかし、まだ交通容量を超過していることから、現在も4車線化に向けて工事が進められています。

恩納バイパス、恩納南バイパスの開通によって、海岸線の商業施設で売り上げが落ちたところがありました。そこで海岸線側の国道58号を「おんなサンセット海道」と名付け、海岸沿いの眺望や沿道に構える個性的な店舗や施設の魅力を発信する取り組みが行われています。（幸喜）

第18号　広報おんな　(1)

国道58号（1級国道）仲泊バイパス開通式

地元の長浜家三代夫婦によって
仲泊大橋の渡り初めを行なった

この道路は、海洋博関連事業として、昭和四八年九月に着工し、総工費約三十億余の資金を投じてこのほど完成したもので、それ以前バイパスに指定された仲泊大橋は、五八号線の中でも一番長い橋（338M）となっていて、恩納村の名物が一つ増えたことになります。

開通式は、九月十八日午後三時から与那嶺北部国道事務所長のあいさつについて、亀谷沿岸総合事務局長、大城恩納村長の祝辞のあとテープカットで長浜善二（当時）さん、信勇さん、信昭さん、親・子・孫夫婦三代にわたる六人が、としえ氏に橋を込めて先頭に立ち、その次に仲泊小中学生の歓声、その後に一般参加者が続いて渡り初めを行ない、とどこおりなくその開通式を閉じた。

又、その後の二十三日に同じく山田地区バイパスの開通式を行ない、山田橋の渡り初めには、宇手加地の農政懇之助（保男）さん、棟永さん、隆敏さん三代夫婦を先頭に山田小中学生の歓声裏によって行なわれた。

仲泊バイパスは、北部縦貫自動車道路と国道329号線バイパスを結ぶもので、これが開通されることによってこれまでの交通事情の悪さが解消されるとともに沿線の経済発展に寄与するものと期待されている。

渡り初めのテープカット

広報おんな 第18号（1975年6月号）

恩納南バイパス全線暫定開通式（2018年3月8日）

【参考文献】

- 『恩納村誌』 1980年 仲松弥秀 恩納村役場
- 『恩納村史 第二巻 考古編』 2020年 恩納村史編さん委員会 恩納村役場
- 『恩納字誌』 2007年 字誌編集発刊事業スタッフ 字恩納自治会
- 『やんばる国道物語』 2005年 やんばる国道変遷誌編集委員会 北部国道事務所
- 「広報おんな」第18号（1975年6月号）
- 「沖縄防衛局広報」第133号（2011年6月1日）